

図表2 主要国の短期金利

	2024年2月	2025年2月
日本	-0.1%	0.5%
アメリカ	5.5%	4.5%
欧州	4.5%	2.9%
中国	3.45%	3.10%
オーストラリア	4.35%	4.10%

(出所) 筆者作成

この質問への回答としては、「各国の金利動向は経済、金融、政治情勢などによって異なるので、上がっている国もあれば下がっている国もあり様々です」と答えるのが一般的だろう。そのうえで、主要国の金利動向については、ぜひ触れておきたいところである。例えば、2024年2月時点と1

年前の2025年2月時点における各国の短期金利は、図表2のとおりである。すなわち、日本の金利は上昇傾向にあるが、海外に目を向けると、主要国では金利は低下傾向であることをお客様にぜひ伝えたい。また、世界各国の金利動向を把握することは現実的ではないが、アメリカの金利動向についてはある程度把握しておくようにアドバイスしよう。なぜなら、アメリカは世界最大の経済大国であり、その金利動向は日本を含めて世界各国の金利情勢にも大きな影響を与えるからである。

特に米ドル建て預金やNISAでも人気のアメリカ株式

アメリカの金利低下が与える影響を説明

アメリカの金利が低下すれば、一般には受け取る金利が減ることから、米ドルを保有するモチベーションが下がり、それは米ドル安（円高）につながる。これは、米ドル建て商品を保有するお客様に

アメリカの金利が低下すれば、一般には受け取る金利が減ることから、米ドルを保有するモチベーションが下がり、それは米ドル安（円高）につながる。これは、米ドル建て商品を保有するお客様に

アメリカの金利が低下すれば、一般には受け取る金利が減ることから、米ドルを保有するモチベーションが下がり、それは米ドル安（円高）につながる。これは、米ドル建て商品を保有するお客様に

Q2 海外の金利も日本と同様に上がっているの？



金利上昇で想定される

お客様からの質問への対応法



藤原久敏
藤原FP事務所/
藤原アセットプランニング
合同会社代表

金利上昇によりお客様から寄せられる、資産運用やマーケットに関する質問への対応法を解説する。

Q1 今後も日本の金利は上がっていくの？



金利に関する質問に対し、まずお客様にしっかりと伝えておくべきことがある。それは、金利の動向は景気や物価、為替など様々な要因が複雑に絡み合い決まるので、「これから上がる（下がる）」と明確に予想することは、たとえ専門家であっても困難ということだ。もちろん、金融機関の担当者も同様だ。お客様には、断定した回答はできないと理解いただくことが大切である。

現在の金利情勢を身近な数字で説明

そのうえで、現在の金利情勢について、あらためてお客様に確認してもらうことが必要だ。金利情勢は、日本銀行の金融政策決定会合の利上げ（利下げ）ペースや長期国債の利回り推移などが目安とされることが多いが、お客様が経済に詳しくなければなかなかピンとこないだろう。そこで、個人向け国債の適用利率の推移など、身近な金融商品の数字を示すとよい。身近な商品のデータを示すことで、現在の金利情勢をより実感してもらえらるからだ。例えば、個人向け国債10年物の過去10年間の3月募集分の適用利率は図表1のとおりである。前述のように、金利の動向ははつきりと回答できないが、現在の金利情勢については、このような客観的な

図表1 個人向け国債10年物の利率

募集年月	適用利率
2025年3月	0.92%
2024年3月	0.47%
2023年3月	0.33%
2022年3月	0.12%
2021年3月	0.09%
2020年3月	0.05% (下限)
2019年3月	0.05% (下限)
2018年3月	0.05% (下限)
2017年3月	0.05% (下限)
2016年3月	0.05% (下限)

(出所) 筆者作成

データから「長らく続いていた超低金利が終わって、上昇傾向にある」とはつきりと回答してもよいだろう。そのうえで今回の質問については、無条件に「日本の金利はどんどん上がる」と回答するのではなく、物価や為替など諸々の金利の変動要因について、いまの状況が続くならば今後も金利の上昇傾向は続く可能性が高く、物価上昇や円安傾向が顕著になれば金利はどんどん上がっていく可能性が高いと、条件付きで回答すればよいだろう。